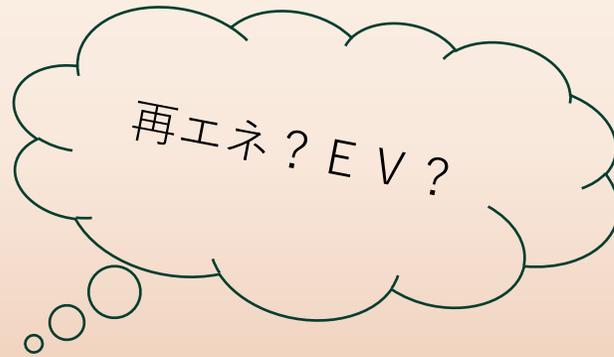


# 再生可能エネルギー推進課のお仕事

## (一般事務職)



# 組織体制

※R6.4.1時点

## 再生可能エネルギー推進課

課長	(事務)	1名
係長	(事務)	1名
事務		2名
電気		1名

# 主な業務① 再エネ普及促進

## 概要

鹿児島市内でどうやったら再生可能エネルギーの利用が増えるかを考え、実行すること。

## やること

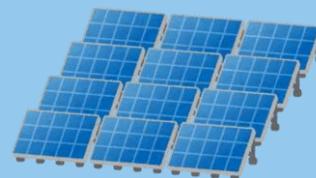
- 市民の方が自分の家などに太陽光発電システムを設置する上で交付している補助金の業務。
- 市の公共施設などに実際に太陽光発電システムなどを設置する業務。
- 環境のイベントなどで、再生可能エネルギーを利用する必要性などを広報する業務。

## 担当者談

毎年のように集中豪雨などの異常気象で被害が出ていますが、多発する原因は地球温暖化の進行であるといわれています。地球温暖化の最たる原因は二酸化炭素排出の増であり、これには再生可能エネルギーの利用が対策になるとされています。地球温暖化の防止につながるよう、鹿児島市内で少しでも再生可能エネルギーの利用を増やすことが我々の使命です。

再生可能エネルギー(再エネ)とは、「どこにでもあって、繰り返し使える、自然のエネルギー」で、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を出さないため、再エネで電気や燃料をつくることで、地球温暖化を食い止められるとされています。

太陽光



風力



水力



地熱



バイオマス



# 主な業務② EVなどの普及促進

## 概要

鹿児島市内でどうやったら電気自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）などの台数が増えるかを考え、実行すること。

## やること

- 市民の方がEVなどを購入する上で交付している補助金の業務。
- 市役所公用車のEVなどへの更新業務。
- 環境のイベントなどで、電気自動車などを導入するメリット等を広報する業務。

## 担当者談

鹿児島市で最も二酸化炭素を排出しているのは運輸部門（自動車での人・貨物の運搬など）です。EVなどの電気ので走る車両（電動車）は、ガソリン車に比べ、格段に二酸化炭素排出が少ないため、これらの車両に変えていくことが重要となっています。家庭用の車両はどんどんEVなど変わってきていますが、トラックなどの大型車両への導入が課題となっています。



**水素で発電しながら走る燃料電池自動車(FCV)  
(走行中、まったく二酸化炭素を出さない)**



# 職員からひとこと！

再生可能エネルギー推進課は、課員5名の少人数体制で、職員が密接に協力しながら業務をこなしています。そして、その業務は今まさに世界的なトレンドとなっている再エネやEVの普及であり、SDGsやカーボンニュートラルの最前線となります。

私たちと一緒に、鹿児島市の未来を考え、実践してみませんか？

